



Title	<書評>Jeferson Tenório, O avesso da pele, Companhia das Letras, 2020
Author(s)	伊藤, 秋仁
Citation	Anais : Colóquio de Estudos Luso-Brasileiros. 2024, 50, p. 51-58
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/98443
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

書評

Jeferson Tenório, *O avesso da pele*,
Companhia das Letras, 2020¹

伊藤 秋仁

本書はジェフェルソン・テノリオの2020年の小説である。*O avesso da pele*（『肌の裏側』）のタイトルからもわかるように本書の主要なテーマは肌の色であり、本書は黒人である著者の体験がここに織り交ぜられたフィクションである。

ジェフェルソン・テノリオは1977年、リオデジャネイロ生まれ、1990年代初めにブラジル南部のポルトアレグレに移り住む。ポルトアレグレの私立大学に入学後、リオグランデ・ド・スル連邦大学に再入学。文学の学位を得る。同大学修士課程にてポルトガル語圏のアフリカ諸国の文学の研究で修士号を、リオグランデ・ド・スル教皇庁立大学で文学理論の博士号を取得している。およそ20年間、ポルトアレグレ市内の様々な公立学校で教師を務めた。2013年に *O beijo na parede*（『壁へのキス』未邦訳）でデビュー、2018年に *Estela sem Deus*（『神なきエステラ』未邦訳）、そして長編第3作の本書はブラジルの権威ある文学賞であるジャブチ賞（文学小説部門）を受賞した。リオグランデ・ド・スル教皇庁立大学のホームページ²によれば、現在は米国のブラウン大学の客員教授を務めている。

1. *abordagens*³

2020年5月25日、米国のミネアポリスで発生した、警察官が黒人男性を拘束するに際して、膝で首を押さえつけ、死に至らしめた事件は、大きな注目を浴びた。この事件をきっかけに、米国全土にブラック・ライブズ・マター運動が大きな盛り上がりを見せた。ブラジルにおける警察のアフリカ系ブラジル人に対する暴力の問題

¹ 本書は評者の翻訳により2024年度中に春風社より出版される予定である。

² 〈<https://online.pucrs.br/professores/jeferson-ten%C3%B3rio>〉閲覧日2024年8月25日。

³ *abordagem* は「尋問、警察によるアプローチ」の意。

は、はるかに大規模で切迫した状況であるはずなのに、おそらくはあまりに日常的であるがゆえに、アメリカのこの一連の動きを、どこか対岸の火事のごとく眺めているように思われた。これは評者の個人的な印象に過ぎないかもしれないが。

本書が出版されたのは同事件発生からまもなくのことであった（2020年8月）。本書の主人公が黒人であり、その主人公が警官に尋問を受ける最中に殺害されるという事件との類似性から、本書は刊行直後から話題を呼んだ。Companhia das Letras社というメジャーな出版社からの刊行でもあり、一部のメディアで大々的に取り上げられた。

テノリオ本人によれば、本書執筆のきっかけも警察による「尋問」であったという⁴。

著者の転機は1990年代初めにリオからポルトアレグレへの転居であった。周知のとおり、リオはアフリカ系住民が大半を占める。一方、ポルトアレグレでは白人が圧倒的マジョリティであり、マイノリティである黒人は否応なく目立つ存在となる。10代初めのテノリオは、ポルトアレグレに転居後、頻繁に警察の尋問を受けたり、容疑者扱いされたりした。40代半ば、社会人として経験を積んだ後、中流階級が居住する地区の自宅前で、おそらくは黒人であるというだけで、警察から尋問を受けた。素直に応じたけれども、ここで不穏な行動を取ればどうなるかという想像から本書のプロットを思いついたという。

2. ações afirmativas

本書は、父親であるエンリケが殺害された後、息子であるペドロが父である「あなた」と母親の人生を一人称で語る物語である。ペドロを含む3人の人生は交錯するが、それぞれの人生が時系列に沿うことなく、細切れに描かれ、構成されている。主役は、二人称で語られるエンリケである。エンリケの両親についての叙述は多くな

⁴ 〈<https://www.wook.pt/wookacontece/novidades/noticia/ver/entrevista-com-jeferson-tenorio/?id=201245&langid=1>〉 閲覧日 2024年8月25日。

とは言え、本書の構想や執筆は米国のジョージ・フロイドの事件以前に行われており、本書執筆と直接的な因果関係はない。

いが、エンリケが生まれてまもなく、実父は家族を捨てた。またエンリケには異父妹が二人いるけれども、妹たちの父親に関する記載はほとんどない。「父親の不在」はブラジルの貧困層における重大な問題であり、貧困の悪循環や青少年の非行の問題とも大きく関わっている。本書では貧困問題に焦点を当ててはいないが、父親の不在はエンリケとペドロの人生や二人の親子関係に大きな影響を及ぼしている。

テノリオも父親がおらず、Prouni（プロウニ）と呼ばれるブラジル政府の低所得家庭の学生に対し大学の学費の全額または一部の奨学金を支給するプログラムの援助を受け、ポルトアレグレにある私立大学の文学部に進学した（その後、リオグランデ・ド・スル連邦大学入学に改めて入学）。エンリケとペドロも、明記はされていないものの、同様に Prouni の恩恵を受けて大学に進学したものと思われる。エンリケとペドロのキャンパスライフからはアフーマティブアクション後の、アフリカ系を主とする貧困層のインテリ学生が直面するアイデンティティの揺らぎが窺われる。大学教育の中に人種が持ち込まれることで、大きなパラダイムの変動が起こりつつあり、その一端が描かれている⁵。

3. elementos afro-brasileiros

⁵ 本書の文学的な意義や重要性は論を俟たないが、批判されることを承知で、あえて欠点を挙げるとすれば、内容の詰め込みすぎと書き込みの少なさである。アフーマティブアクションにより大学に入学したアフリカ系学生のアイデンティティの揺らぎや社会進出の困難さは、本書の通奏低音の一つであり、もっと丁寧に描くべきではないかと感じた。テノリオもその点について意識しているかどうかは不明であるが、機会を別に譲った可能性もある。テノリオのインタビュー記事によれば、次回作はクォータ制導入後の3人の黒人大学生についての物語になるという。

Luiz Felipe Cunha, “ENTREVISTA Jeferson Tenório: Uma entidade que fabrica as próprias armas” 28 de janeiro de 2022.

〈<https://www.bpp.pr.gov.br/Candido/Noticia/ENTREVISTA-Jeferson-Tenorio>〉 閲覧日 2024 年 8 月 25 日。

2020 年にはテノリオと同じくアフリカ系ブラジル人であるイタマール・ヴィエイラ・ジュニオールの『曲がった鋤』⁶がジャブチ賞（文学小説部門）を受賞、翌 2021 年にはテノリオの本作が続いた。2 年続けてアフリカ系の作家が同賞を受賞したことで、大学と同様、白人が大半を占めてきたブラジル文学界に新たな潮流が生まれたことが示された。

両作品ともアフロブラジルの要素を基軸に物語は展開しているが、読後感はまったく異なる。『曲がった鋤』はいかにも文学的な作品だ。大きな構想の中で、アフリカ系ブラジル人が辿った歴史や苦難を物語に昇華させ、その余韻で読者にメッセージを伝える。一方でテノリオの作品は直接的だ。ストーリーは決して複雑ではない。描写も余韻を感じさせるというよりも、言葉を投げつけているようだ。評者が読み終えた時、最初に感じたのは同書の持つ「オフビート」ともいえるテイストであった。様々な要素がときに脈絡なく提示される。言葉の選び方も直截であり、文体や文章に凝ったところもない。おそらくはあえてそうしたのであろうが、作為なく即興的に見えるさまは、テノリオの好むブラジルのアフリカ系ヒップホップアーティストたちの詩作法を援用しているのかもしれない⁷。

⁶ 邦訳は武田千香・江口佳子訳、水声社、2022 年。「この作品が最初に刊行されたのはブラジルではなく、まずは 2018 年のポルトガルの文学コンクールのレヤ賞の受賞作品として 2019 年 1 月にポルトガルのレヤ社から出版され、ブラジルではその後、同年 8 月にトダヴィア社から刊行された。」武田千香「語りはじめたアフロブラジル作家たち—原点を見つめなおして—」『総合文化研究』第 25 号、東京外国語大学総合文化研究所、2021 年、31 頁。

⁷ ”Fã de Racionais MC’s, Mano Brown, Criolo e Emicida, ele também foi rapper. “Ruan de Sousa Gabriel, “Jeferson Tenório: com o premiado ‘O avesso da pele’, que ganhou o mundo e vai virar filme, autor sobe ao primeiro escalão da literatura brasileira” O GLOBO CULTURA, 20 de janeiro de 2022.

〈<https://oglobo.globo.com/cultura/livros/jeferson-tenorio-com-premiado-avesso-da-pele-que-ganhou-mundo-vai-virar-filme-autor->

本作には様々な黒人ミュージシャンの音楽が引用される。しかし、その音楽について詳しく語られることなく、ただ曲名や歌詞の一部が提示されるにすぎない。引用されるのはミルトン・ナシメントやルイス・メロディアといったメジャーどころから、ジャルズ・マカレやイタマル・アスンサンといったマイナーどころまで。冒頭と末尾のペドロが心情を吐露するシーンには、オグン、オリシヤ、オクタなどアフリカ系宗教の神や呪物が現れるが、それも詳しく語られることもない。

4. discriminação racial

本書のクライマックスであるエンリケの死は、人種的な偏見を背景にした警察の理不尽な暴力によるものである。本書のタイトルはエンリケの口からペドロに伝えられる言葉の中に現れる。

「誰にも見えない裏側を守れ。遠からず肌の色が我々の体を貫き、世界での我々の在り方を決める。どれだけお前の人生に肌の色が介在しようが、お前の態度や生き方がその支配下に置かれようが、お前はどうかして保たなきゃいけない。そこに収まらない何かを。筋肉と臓器と血管の中にお前だけのただ一つの場所がある。そこにあるのが愛情だ。その愛情が我々を生かしてくれるんだ」⁸

自身の感情を抑えながら、人種差別が愛する息子にもいづれ及ぶことを伝え、人種差別に屈せずに生きることを鼓舞する言葉である。人種差別は本書にそこはかない悲しみを伝えている。

本書には、黒人が置かれている様々な社会状況が、主人公の3人と彼らを取り囲む人々との関係を通じて描かれている。構造的な人種差別（労働市場での差別、教育の現場での差別）、人種差別的な言動（ユーモアと人種差別の微妙さ）、異人種間にある見えない

sobe-ao-primeiro-escalao-da-literatura-brasileira-25360784〉閲覧日
2024年8月25日。

⁸ 拙訳による。Tenório, op. cit., p.61

壁、ネグリチュードに対する意識の濃淡、黒人が統一的に行動する困難さ（政治的マイノリティの代表性の阻害）、早熟な性、家庭内での暴力、黒人女性に対する差別（カラーリズム：同人種間でも肌の色の濃淡によって生ずる差別）など⁹。

これらの人種差別に関するエピソードは、エドワード・E・テルズの『ブラジルの人種的不平等』¹⁰で指摘された事例と多くの点で重なっており、作者もそれを基に作中で言及したと思われる。

5. ensino público

テノリオは大学在学中から公立学校の教師を務めた。本書においても主人公エンリケの職業は公立学校の教師であり、公立学校は重要な物語の舞台となっている。ブラジルの公教育の資金不足や質の問題、教員の多忙な業務や待遇の悪さ——ゆえに掛け持ちが当たり前になっている——が、本書でもエンリケの体験として描かれ、しばしばうんざりした思いが吐露されている。一方で、青少年・成人対象の夜間クラスにおけるエンリケの描写は本書のもう一つのクライマックスである。貧困層が直面する暴力や薬物の問題が教室内で描かれる。生徒たちを「落ちこぼれ」と称しながら、彼らに対する教育の無益さを嘆きながらも、エンリケは犯罪者に身を落としかねない生徒たちを放置できずにいる。最後には愛読書であるドストエフスキーの『罪と罰』を語り演じることで生徒たちの関心を引き付けることに成功する¹¹。

⁹ 人種差別の分類については、下記のサイトを参考に、評者が加筆して作成した。

Mayumi Maciel, “O avesso da pele: questões raciais e afetos”, Instituto Aurora, 13 de dezembro de 2021. <<https://institutoaurora.org/o-avesso-da-pele/>> 閲覧日 2024 年 8 月 25 日。

¹⁰ 評者と富野幹雄南山大学名誉教授の共訳。明石書店、2011 年。

¹¹ テノリオ自身も教室でストーリーテリングの授業を行っている。“Acabei me tornando um contador de histórias. Percebi muito rapidamente que contar histórias em sala de aula era uma questão de sobrevivência para você conseguir ser escutado pelos alunos.” Camila Prado, “Entrevista Jeferson Tenório: Da literatura em sala de aula à sala de aula na literatura”, Escrevendo o futuro, 1 de novembro de 2022.

テノリオ本人は、エンリケの造形を自身とは異なる存在であると述べている。エンリケは「非常に夢見がちで、ドン・キホーテ的な人物である」¹²と。テノリオはインタビューの中で、教職は「自分にできる唯一の仕事」¹³であると語っている。ポルトアレグレ出身の黒人の詩人で文学の教師でもあるジョルジ・フロエスが書物について語る姿を見て、「これこそが自分のやりたいことだ」¹⁴と思ったという。ジャブチ賞受賞後、教師を辞め専業作家となった今も教室が恋しいとしばしば発言している¹⁵。

6. censura

ブラジル社会は国論を二分する対立が生じている。ジャブチ賞受賞後、ブラジル社会の過度な変化を望まない人々から、本作はしばしば目に見える形で「反感」を示されるようになった。2022年3月には、バイア州サルヴァドルの私立の高校で講演が予定されていたが、中止しなければ殺害するという脅迫を受けた（結局オンラインで実施された）。2024年3月にはリオグランデ・ド・スル州の内陸部サンタクルス・ド・スル市の州立高校の校長が動画を投稿し、本書の批判を展開した。批判の矛先は人種差別や警察の暴力の描写ではなく、本書で描かれた性的表現だった。18歳未満の学生には不適切だとして、教育機関からの回収を訴えた。マツグロソ・ド・スル州、ゴイアス州、パラナ州の教育局が同調し、本書が教育機関から回収される騒ぎが起こった。一方、このような「検

〈<https://www.escrevendoofuturo.org.br/conteudo/revista-digital/artigo/124/entrevista-jeferson-tenorio>〉 閲覧日 2024年8月26日。

¹² Carolina Paz Comerlatto, “Jeferson Tenório: ‘O que fica são essas histórias que ainda não foram contadas’”, *Journal da Universidade*, 22 de agosto de 2024.

〈<https://www.ufrgs.br/jornal/jeferson-tenorio-o-que-fica-sao-essas-historias-que-ainda-nao-foram-contadas/>〉 閲覧日 2024年8月26日。

¹³ Prado, op. cit.

¹⁴ ibid.

¹⁵ テノリオはジャブチ賞受賞後、20年続けた教職を辞めた。最初の10年間は公立学校の、後半の10年は私立学校の教員を務めた。

関」に対する反発が各方面から生じた。出版社は「文脈から切り離し、歪曲された一部分の解釈に基づいて書物を回収する行為は、教育と民主主義の基本的な原則を冒涇するものであり、文化的議論を弱体化し、生徒たちから批判的・内省的思考力を養う能力を損なうものである」と反論した。インターネット上の署名運動では、シコ・ブアルケ、ドラウジオ・ヴァレーラ、レニーニ、ミア・コウトといった多数の文化人がいち早く声を上げている¹⁶。

テノリオのインタビューにおける発言や、博士号取得をはじめとするアカデミズムへの傾倒から察するに、執筆に際してイタマル・ヴィエイラ・ジュニオールのような従来の文学的なアプローチを採用することも可能であったはずだ。しかし敢えて露悪的とも言えるような表現を厭わず、シンプルな題材をシンプルな言葉で描いたのは、当然のことながら彼なりの計算や意図があつてのことと思われる。結果としてビビッドで心に突き刺さる傑作を生み出した。ラッパーでブラジルのアフリカ系ストリートカルチャーに親しんだ思春期とアフターマティブアクションの恩恵を受けて大学で学んだ青年期、教職と研究に打ち込む壮年期のそれぞれが彼の作品に多様な彩りを与えている。今後は黒人として、父親として、どのような作品を物していくのか。目を離すことができない。

¹⁶ “Contra a Censura à Literatura de Jeferson Tenório”, change.org
〈<https://www.change.org/p/contr-a-censura-%C3%A0-literatura-de-jeferson-ten%C3%B3rio>〉 閲覧日 2024 年 8 月 26 日。